

令和5年10月19日

瑞穂市長 森 和之 様

「瑞穂市第2次総合計画にもとづく事業評価（令和4年度実施分）」および「瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略にもとづく事業評価（令和4年度実施分）」について（答申）

瑞穂市総合計画等評価審議会

会長 曾我部 雄樹



令和5年7月19日付け瑞政第46号にて諮問のありました「瑞穂市第2次総合計画にもとづく事業評価（令和4年度実施分）」および「瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略にもとづく事業評価（令和4年度実施分）」について、本審議会により慎重かつ厳格な審査を重ねた結果、以下の結論に至ったことをご報告申し上げます。

答 申

瑞穂市総合計画等評価審議会では瑞穂市より諮問を受け、令和4年度に実施された「瑞穂市第2次総合計画」にもとづく8事業および「瑞穂市まち・ひと・しごと創生総合戦略」にもとづく2事業について評価を行い、すべての事業で有効であったと結論に至った。

審議会では10事業のすべてで「有効であった」が90%を超え、また8事業では満場一致であった。これらは瑞穂市の行政が受け入れられていることを表している。しかし事業とKPIの関連性については複数の意見があり、評価指標の見直しを検討すべきである。また、事業内容、予算、成果には厳しい意見もあった。これらは委員の多くが民間企業での感覚で行政を見ており、評価への認識に乖離があったと言える。

第2次総合計画では5つ、まち・ひと・しごと創生総合戦略では4つの基本目標が設定されており、その目的は人口減少に歯止めをかけ、将来にわたり活力ある地域を維持し、瑞穂市を誰もが未来を描ける都市にすることである。これらの達成は瑞穂市で生活している市民、事業を営む者にとって重大な関心事である。この数年はコロナ禍の影響を受け事業の実施には多くの困難があったと考えられ、これらの対応をした森市長をはじめ市職員の努力と試みには敬服する。

瑞穂市はコロナ禍においても毎年人口を増やし続け、2018年度（2019年3月31日時点）から現在までの4年間で1381人が増えた(1)。一方で自

治会加入率は68.3%であり、一部の地域では高齢化も進んでいる(2)。第2次総合計画およびまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標の達成には行政の幹から自治会の枝葉、また従来の市民から新しく移り住んだ市民までがこれまでの意識を変えて相互に協力し、瑞穂市に関わるすべての者が幸せになれる施策が必要である。本審議会では種々議論が行われたが、どの意見も行政に対する期待が込められている。これらの意見を尊重し、より多くの市民、事業を営む者が満足する事業の推進を望む。



- (1) 市の統計, 瑞穂市, 2023年.
(<https://www.city.mizuho.lg.jp/8616.htm>) (2023年8月2日取得)
- (2) 瑞穂市の自治会の概要, 瑞穂市, 2023年.
(<https://www.city.mizuho.lg.jp/secure/1696/R4%20jitikaigenkyou.pdf>) (2023年8月2日取得)